



予告 2025年 ピースあいち夏の企画展 〈その1〉「^{まな}学び舎から^や戦場へ」

2025年7月22日(火)～9月13日(土)

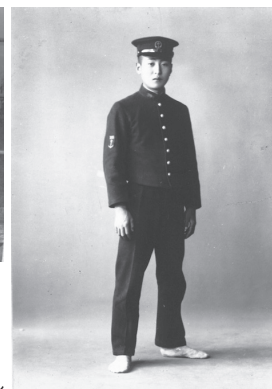
皆さんは「学徒出陣」という言葉を聞いたことがありますか？

太平洋戦争末期、徴集延期が停止され、学業半ばで多くの学生が戦地へ赴きました。足りない兵力を補う即戦力として国から求められたのです。また、海軍飛行予科練習生には、愛知県でも多くの少年たちが志願をしています。将来への希望に燃えて勉学やスポーツに打ち込んでいた学徒たちは、なぜ学び舎を去り、戦場へ向かうことになったのでしょうか。

教育現場が戦争に巻き込まれていく過程を「愛知一中予科練総決起事件」「学徒出陣」「特攻」と大きな3つのテーマを軸に取り上げました。「今こそ起つべき出陣の秋が来た」(小冊子『学徒出陣』より)の声のもと、出征していった若者たちは、何を考え、どんな気持ちであったのか。この夏、ぜひ展示を見て、思いを馳せていただければと思います。



▲鳥濱トメさんと陸軍特攻隊員たち



▶予科練制服姿の鈴木忠照さん

◆イベント

朗読劇「嵐のあとに」トークイベント

7月26日(土)13:30～14:30 馬場豊さん

「特攻」講演会

8月23日(土)13:30～15:00 加藤拓さん

予告 2025年 ピースあいち夏の企画展 〈その2〉

「戦後80年 戦争を語り継ぐ—語り事業のあゆみ・これから」

2025年7月22日(火)～9月13日(土)

いまだ世界のあちこちで戦火は絶えることなく、さまざまな分断も進んでいます。また過去の戦争の実相をゆがめ美化し、あるいはなかったものにしようとする危険な動きも見られます。そんななか、「再び戦争の惨禍を引き起こさないように」と願い、自らの過酷な体験を語ってきた戦争体験者の、そしてそれを語り継ごうとする人たちの活動は、今もこの先も、平和を実現する上で大きな意味を持つはずです。

2007年の開館時からボランティアが行ってきた戦争体験の語り、「語り手の会」の結成、戦争を体験していない者が語り継ぐための模索、「語り継ぎ手の会の結成」、語り継ぎ手養成プログラムの実施など、ピースあいちでは体験者の高齢化を前にさまざまな試みをしてきました。戦後80年の今、「ピースあいちの語り事業」の歩みを振り返り、次の時代の戦争体験継承活動を展望します。

【展示の内容】

1. ピースあいち語り事業の始まり
 2. 「ピースあいち 語り手の会」の活動紹介
 3. 「私はこうして語ってきました」語り手34人の紹介
 4. 「ピースあいち語り継ぎ手の会(愛称:リボン)」の活動紹介
 5. 「私の戦争体験の語り継ぎ方」12人の語り継ぎ紹介
 6. 持続可能な戦争体験の継承活動をめざして
- * 戦争体験者の語り映像が1階・2階の映像コーナーでご覧いただけます。



語り手・語り継ぎ手のパネル展示の一部

報告 沖縄から平和を考えるー沖縄の基地問題は私たちの問題

2025年5月27日(火)～7月12日(土)

今回の特別展示は、日本の軍備増強の進捗状況や自衛隊と米軍の共同演習などに関する情報です。来館者の目をひいたのは3階展示室の視聴コーナーの動画「米軍基地のある日常」、2階の映像コーナーの沖縄戦体験の証言などでした。プチギャラリーでは昨年の南部地域に続き、沖縄北部11市町村の「沖縄戦を語り継ぐ」取り組みを紹介。

また、関連イベントとして6月21日(土)に阪井芳貴さ

ん(名古屋市立大学名誉教授)のトーク「沖縄民衆のチカラ」と映画「サンマデモクラシー」を開催しました。



学生たちが多く訪れた会場



講演会

◎戦後80年、ピースあいちの語り手・語り継ぎ手が「戦争体験」をお話します。

ピースあいち2025年夏 戦争体験を聴くシリーズ

開催場所 ピースあいち1階交流のひろば
開催時間 14:00～15:00
参加費 入館料(大人300円 小中高生100円)でご参加いただけます
定員・申し込み 各日とも定員40人
要電話予約 ☎052-602-4222
1日、6日、7日、9日、15日はZOOM配信があります。参加無料。申し込みはQRコードから→



開催日 8月／	語り手	テーマ
1日 (金)	井戸早苗さん 語り手の会 オンラインあり	空襲下の暮らし・戦後の暮らし
2日 (土)	澄谷三八子さん 語り手の会	1945年5月17日名古屋空襲
5日 (火)	津田さゑ子さん 語り手の会	名古屋空襲・戦時下の暮らし
6日 (水)	佐々木陽子さん 語り継ぎ手の会 オンラインあり	私のヒロシマ
7日 (木)	橋本克巳さん 語り手の会 オンラインあり	満蒙開拓団、たった一人10歳で引き揚げ
8日 (金)	松下哲子さん 語り手の会	満州ー奉天ー引き揚げ
9日 (土)	中上 寧さん 語り継ぎ手の会 オンラインあり	キノコ雲の下で～家族の被爆体験～
12日 (火)	中野見夫さん 語り手の会	熱田・名古屋空襲
13日 (水)	高山孝子さん 語り手の会	岡崎市に縁故疎開
14日 (木)	八神邦子さん 語り手の会	学童集団疎開
15日 (金)	森下規矩夫さん 語り手の会 オンラインあり	名古屋空襲体験 戦中・戦後の生活

愛知・名古屋戦争に関する資料館 戦争体験談を聞く会

ところ 愛知・名古屋戦争に関する資料館 2階会議室
中区丸の内3-4-13 愛知県大津橋分館
時間 13:30～14:30
参加費 無料
*お申込み、詳細は愛知・名古屋戦争に関する資料館へ
TEL 052-957-3090

開催日 8月／	語り手	テーマ
11日 (月)	澁谷美子さん 語り継ぎ手の会	上野三郎さんの戦争体験を語り継ぐ
16日 (土)	大橋麻由さん 語り継ぎ手の会	満蒙開拓を語り継ぐ
18日 (月)	野村秀夫さん 語り継ぎ手の会	10歳の少年の引き揚げ体験を語り継ぐ
19日 (火)	橋本克巳さん 語り手の会	満蒙開拓団、たった一人10歳で引き揚げ
20日 (水)	小澤美由紀さん 語り継ぎ手の会	大叔父(祖父の弟)の戦争体験
21日 (木)	中村桂子さん 語り継ぎ手の会	娘が語り継ぐ父の沖縄戦
22日 (金)	中川弘美さん 語り継ぎ手の会	戦時下の母の青春
23日 (土)	富田祥子さん 語り手の会	3歳児の朝鮮からの引き揚げ

映画上映会

「しがみつ き、燃え続ける(名古屋を消す)」

"CLINGS AND BURNS(ERASING NAGOYA)"(53min.)

ピースあいちで開催した企画展「80年前、父は名古屋を焼きつくしたーB29搭乗員の記録から」(2025 3/11～5/17)の関連イベントで上映した、搭乗員の息子ロバート・フレミング氏(ビジュアル・アーティスト)が製作した映画を「あいち平和のための戦争展」で再上映します。西形久司さん(東海高校教諭・名古屋空襲研究家・当NPO理事)が映画の魅力や注目すべきところを解説します。

と き 2025年8月17日(日) 14:15～16:00

ところ 東文化小劇場

参加費 無料(但し入場料500円が必要です)

予約不要

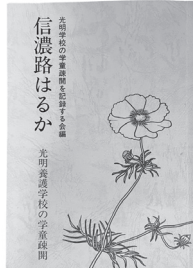
予告 子ども企画展 「戦争の中の子どもたち」と「戦争と動物たち」

2025年9月23日(火)～11月22日(土)

子ども企画展は、2011年より毎年開催しています。子どもたちのためにわかりやすい文章で書かれたパネルと当館所蔵の実物資料を通して、戦時下の教育や子どもたちの暮らしを振り返ります。戦況の悪化に伴い、子どもたちは次第に戦時体制に組み入れられていきました。都会では、空襲が激しくなり、1944(昭



紙芝居「あんずの花につつまれて」



光明養護学校の学童疎開

和19)年の夏から学童の集団疎開が始まりました。

今回の特別展示は、「学童疎開」を取り上げます。親元を離れて慣れない環境で空腹を抱え農作業もした当時の集団疎開の実情を紹介します。また、障がいをもった子どもたちの学童疎開についても焦点を当てます。愛知県立盲・聾学校、当時全国で唯一の肢体不自由児のための公立学校、東京市光明国民学校の集団疎開についても展示します。

◆子ども展のイベント

▶10月16日(土) 13:30～14:30

朗読の会「オリーブ」による朗読

せんそうをはしりぬけた『かば』でんしゃ 他

▶11月1日(土) 13:30～15:00

西形久司さんの講演「戦争と子ども」

約90人の「戦争体験者の語り動画」が館内で視聴していただけるようになりました!

2020年、ピースあいちは「戦後75年プロジェクト」として、「語り継ぎ手の育成」と「戦争体験の記録保存活動の推進―体験集の発行と体験者の語り映像の整備」を目標に掲げました。あれから5年。

当初3年での整備としていた「語り映像の整備」は苦戦していましたが、映像編集技術に長けたボランティアの参画で作業が一気に進み、いよいよ戦後80年の今夏、15分ほどに編集した約90人の戦争体験者の語りを館内で視聴していただけるようになります。編集前の全編動画も、重要な歴史的資料として大切に保存し、将来にわたって活用できるようにしていきます。

今夏、ピースあいちで戦争体験者たちの声に耳を傾けてみませんか。



○動画のテーマ

- ・軍隊・戦場体験
- ・広島・長崎の原爆体験
- ・空襲体験
- ・学徒勤労動員体験
- ・学童疎開体験
- ・抑留・引き揚げ体験
- ・その他

「来館者と創る平和の作品展」にたくさんのメッセージをいただいています。

「ピースあいち 戦後80年事業」のひとつ、「来館者と創る平和の作品展」。平和や戦争についての「思いや想い」を自由に書いていただき、それを集めて一つの大きな作品(ちょうちょ、アオギリ、翼)を作ります。



2025年の次世代交流チーム

3月に数年ぶりとなる「学生の日」を実施し、起案者4名を中心にロールプレイングイベント「もしもこの国で戦争がおこるとしたら」をおこないました。13名の高校生、大学生の方々が来館され、非常に盛り上がりしました。その後、5名がボランティア登録、次世代交流チームに参加してくれました。

8月3日には今年2回目の「学生の日」を初めて夏休み期間中に開催します。戦後80年という関心の高さから多くの学生のみなさまにご来館いただけると期待しています。今回も、「学生の日」からピースあいちのボランティアに参加してもらえるよう、精一杯楽しんでいただけるイベントにしていきます。

また、8月16日にはピースあいち戦後80年企画としての「ロールプレイングイベント」を実施予定です。こちらは対象年齢を引き下げ小学生から参加できる時間を設ける予定で、「学生の日」ではなかなか告知や来館に繋がらない小・中学生にも対応できるようイベント内容を新しく構成しています。それらを子どもたち対象のイベントにし、今後に生かしていきたいです。



3月16日(日)に行った「学生の日」 ワークショップの様子

平和へのメッセージ

昨年2月に亡くなった平和学の父 ヨハン・ガルトゥング氏は、構造的暴力のない「積極的平和」を掲げました。「平和には、国家や国民の間に、ただ暴力や戦争がないだけの消極的平和と、信頼と協調の関係がある積極的平和がある」と。彼が来日したのは2015年8月、第2次安倍政権が安全保障政策の

大転換を図っていた時でした。それを推し進めるために使われた言葉が、日米の軍事的な同盟がベースの「積極的平和主義」。ガルトゥング氏はこれを痛烈に批判しました。さて、消極的平和も実現できない今日の世界を、ガルトゥング氏はどう見ているのでしょうか。氏は沖縄の諸問題にも心を寄せていました。

映画「サンマデモクラシー」を見て

「サンマデモクラシー」という奇妙なタイトルの映画で初めてこのことを知った。沖縄復帰前の1964年、主人公の魚屋の玉城ウシさんが行政のミスで対象から外れたサンマに関税をかけたことに憤慨、裁判を起こし、下里恵良弁護士の応援のもと上告審でも勝ち、時の高等弁務官キャラウェイ（「沖縄の自治は神話である」と言い放った米陸軍の軍人）の布令により無効にされても、なお裁判に訴え、その布令が取り消されて、遂には道理が通るというごく当たりまえの結末となった。つまり民衆のチカラは民主主義という当たり前のことを問い、また民衆はそれに味方をするからこそ力を発揮する。

薩摩藩の圧政、琉球処分、沖縄戦、その後の米軍

本守 真人（第9条の会なごや）

占領と基地被害。安倍元首相の「台湾有事はわが有事」の発言や地政学の名のもとに中国向けミサイルの配備など、沖縄は新たな犠牲を強いられつつある。これにほとんどのうちなんちゅうーは苦々しく思っている。うちなんちゅう、ないチャーは同胞である、共同して闘う相手はいるはずである。サンマ裁判はこれからも沖縄のあらゆる解放運動に通底すると思った。そして沖縄の平和は日本の平和である。

小生は大学時代、復帰前1969年の沖縄を訪ねた。♪固き土を破りて……。思えば小生の平和運動の原点の1つである。（6月23日沖縄戦慰霊の日）

悲惨の記憶に立ち向かう勇気を持とう

先日“沖縄慰霊の日トーク&映画会”“沖縄から平和を考える企画展”に参加させていただきました。人生最終章を迎えた私にとって、少し大袈裟になりますが、残りの時間如何に、何のために使うか。その目標が明確になり、自身の使命を深く決意することとなりました。

帰路図書館へ立ち寄り一冊の本を手に取りました。人間魚雷“回天”です。そこには、明日出撃する搭乗員の両親・家族へのメッセージが記されていました。読めば読むほどに心が激しく震え上がるのでした。なぜ、どうしてこんなことに……と思うのでした。

過去の歴史・事実に対して真正面から向き合い、その真実の姿を如何にして継承していくのか、風化忘却との戦いであると深く自覚したのでした。また、新聞各紙でも“慰霊の日”の記事記載があり、“命は宝”です

鎌倉 千俊
（会員）



と、次代を担う青年へ語るようすが目立ちました。

戦後生まれの私は戦争経験はありませんし、戦後の苦労もほとんどありません。高度経済成長の波に乗って来ただけに過ぎません。その私がいかに自分のこととして次の世代の方々へ伝えていけるのか、その資格があるのか？ いや、私達はやらねばなりません。

今も世界各地では戦禍が絶えません。悲惨な歴史を直視し、それを語り継いでいかねばなりません。私達は、学び・考え・語り・行動することです。勇気を持って出来ることは確かにあります。

平和ほど尊きものはありません。

若い世代の「平和へのメッセージ」を映像で発信

ドキュメンタリー「戦後80年 東山ゾウ物語」(柄窪ゼミ制作)上映会では、学生のメッセージを広く紹介できました。ありがとうございました。

私の研究テーマは社会情報を映像で伝えることです。これまで「市民が手作りで平和発信～ピースあいち」(2009年)、「私は伝えたい!風船爆弾～女学生の証言」(2013年)、「竹内浩三の詩とその時代」(2015年)などを学生と制作してきました。こうしたドキュメンタリーを大学ゼミで制作する意義は深いと思います。映像には若い世代のメッセージが込められ、それをネットで世界に発信できます。制作過程で学生が自ら学び、平和の大切さを未来につなげられます。東山ゾウ物語

柄窪 優二
(椋山女学園大学 特任教授)



では、戦争中に動物園で猛獣が殺処分されたことを知らない学生もいました。

映像メディアは身近な映像と音声で表現でき、わかりやすいです。その一方で「事実の一部」しか伝えられません。表現者は視聴者に間違いや誤解を与えてはいけません。戦後80年が経過、コンピューターやインターネット、SNSが広がり、情報化社会になりました。しかし世界を見ると、いまだに戦争が続いています。こうした情報科学の発展を平和につなげたいです。私は映像で伝え続けます。

加害側の私たちこそ忘れてはならない

1990年代、東南アジア各国を歩いた。日本のODAや日本向けの熱帯林伐採、農水産物の生産現場など、経済大国となっていた日本の影響が大きく及ぶ東南アジアの農山漁村を歩き、地域の方々の話を聴いて回った。

フィリピン・ルソン島では、日本人は怖い、と言って、日本人と会うことも拒絶される高齢の方々の様子を伝えられた。インドネシアでは、日本軍が地元の人々を強制的に動員して開削しようとして失敗した排水用のトンネルの現場を訪れた。戦後、日本のODAで完成したそのトンネルを管理している職員が、「戦時中、日本軍によって村人が強制労働させられ278人が亡くなったことを知っているのか」と詰問され、そこまで詳細には知ら

神田 浩史
(NPO法人泉京・垂井)



ないことを謝るしかなかった。多くの犠牲者を出しながら工事を強行した泰緬鉄道。その様子を展示しているタイ・カンチャナブリの戦争博物館の入り口には"Forgive, but not Forget" (赦しましょう、けど、忘れません)と記されている。加害側の私たちこそ、ここに展示されていることを忘れてはならないことを肝に銘じた。

戦前は軍事侵略、戦後は経済侵略、と日本に対して厳しい視座で臨んでいた東南アジア各国のNGOの先達たち。それでも、「日本国憲法9条がある限り、戦前には回歸しないと考えているよ」とも。こういったことを、改めて各所で伝え続けていきたい。

原発事故の被害当事者として、平和な社会を求め声を上げる

私は2011年3月11日、福島第一原子力発電所の事故で放射性物質が東日本の広範にわたり拡散されたことにより、愛知に4人の子どもを連れ3ヶ月の妊婦という状況で避難をした原発事故被害者です。当時、福島県の伊達市という中通り北部で、原発事故の被ばく被害を受けました。

避難をしてから2013年6月に、名古屋地裁に国と東京電力の法的責任と被害に見合った賠償を求め、集団訴訟を提訴しました。高裁のたたかいが始まる2019年9月に原告団を新たに組織し、原発事故を人権問題と捉えた「だまっちゃおれん!原発事故人権侵害訴訟・愛知岐阜 原告団」の団長を務めています。

訴訟の中で、電力の歴史と料金システムを紐解き、国の主導のもと「核の平和利用」というまやかしに踊ら

岡本 早苗
(原発事故の被害当事者)



されてきた、電力会社も、司法も、想定できた重大過酷事故を防がなかったことへの責任がいかに重く、憲法に照らしてもあってはならないことだったかを書面化し提出しています。

原発は「核の平和利用」を目的として稼働してきました。原爆により長く続く被害と同じ放射線被ばくを、国も東京電力も被害地域に強制し、原発事故の被ばくは問題ないとしています。私たちは、原発事故を起こした責任を誰も取らない社会に、平和を感じることはできません。原発事故の被害は地域住民にとって、この先100年以上続きます。これからも被害当事者として、平和な社会を求め声を上げ続けます。

ピースあいち「語り事業」の取り組み

2024年度の語り事業は、延べ89人の語り手・語り継ぎ手が3979人に戦争体験を語りました。

「原爆症の怖さが心に響きました。大人になった時に戦争を絶対起こさないようにしたい」(小学6年)「戦争体験者の家族の話を聞くことは、戦争体験をしていない子どもたちにとって良い経験になった」(小学校教師)などの感想から、直接戦争体験を聞くことで平和、戦争について学び考える意義が理解されているように思います。

2025年度、愛知県・名古屋市がピースあいちに委託している「小・中学校平和学習支援事業」には、県下で53小・中学校の申し込みがありました。平和学習の充実に力を入れる学校が増えてきています。

戦争体験者の「語り手の会」会員は、2009年では89人でしたが、現在では10数人に減少し平均年齢は89歳です。「語り継ぎ手の会」会員の32人が語り活動に参加しています。11月には両会を合同し、これまでの活動の蓄積を生かし、戦争体験の継承に取り組みたいと思います。



自作の映像を活用して来館者の体験を語る



語り手の会例会に語り継ぎ手も参加して交流

報告 来館者と一緒に楽しめたピースまつり

晴れ渡った5月3日に、開館18周年ピースまつりを130名ほどの来館者で開催しました。出演は『仮面の吟遊詩人』メンバー 3人の歌とギター演奏7曲から始まりました。『戦争を知らない子どもたち』では客席も歌い一体感がありました。次は平和への祈りを花に託して舞う『花舞人-ひらり』さん。曲に合わせてダンスを踊りながらブーケを作り、お客さんにプレゼントする素敵な趣向でした。最後はお馴染み『ピースあいち朗読の会オリーブ』の選りすぐった4作品の朗読会で、平和を願いながら終わりました。2・3階、リニューアルされた1階の『現代の戦争と平和』の展示ガイドも好評でした



オープニングを飾った『仮面の吟遊詩人』のステージ

報告 2025年度の「理事会」「総会」を開催しました。

NPO平和のための戦争メモリアルセンターは、5月11日に理事会、6月15日に総会を開催しました。昨年度の事業報告、決算と新年度の活動計画、予算、役員体制(2年任期)、定款の一部変更を決めました。常設展示「現代の戦争と平和」のリニューアル、語り継ぎの活動の推進、資料の収集・保管、図書の整理、映像コーナーの充実など、多くのボランティアの参加で運営されていることが報告されました。また、「戦後80年 平和な未来のために 今 知る 考える 動く 伝える」をテーマに、多くのボランティアの参加で取り組みが始まっていることも報告されました。また臨時理事会を開催し、理事長に鈴木秀幸さん、副理事長に宮原大輔さんを選任しました。

TOPICS

この夏、報道機関からの取材や資料の問い合わせや、平和展などへのパネルや資料の貸し出しも多くなっています。戦後80年、平和を考える報道や企画にピースあいちの長年の取り組み、蓄積が大きな役割を果たしているといえます。

今年の夏も ボランティアインターンシップ

夏休みを活用して、名古屋市立大学、聖霊高校など、中学生、高校生、大学生たちがピースあいちのボランティアに参加しています。入館者の受付、企画展やイベントの運営、当番ボランティアとの交流を通して、戦争と平和を考える大切な機会となっています。また、学芸員の資格習得を目指す博物館実習生の受け入れも行っています。

「教員のための博物館の日 in ピースあいち」

今年、新たに開催します。これは、学校教育の中でもっと博物館を活用してもらうために、教員のみなさんに博物館の紹介をしようと国立科学博物館・日本博物館協会が呼びかけている事業です。ピースあいちでは8月21日(木)に開催します。

詳細はこちら→



シリーズ 平和を守る仲間たち②③ 模擬原爆パンプキンの発見

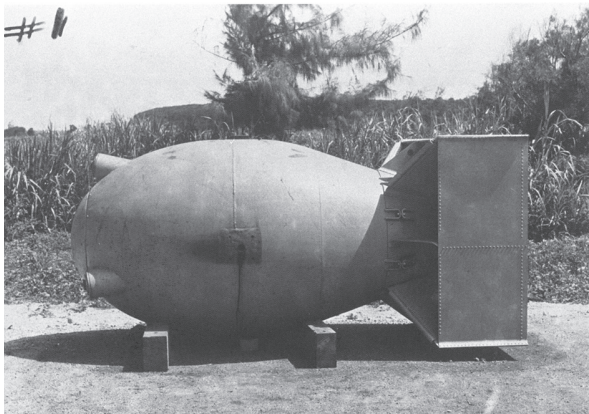
1945年8月14日午後3時、「軍都春日井」の上空に4機のB29が侵入、名古屋陸軍造兵廠鳥居松製造所と同鷹来製造所に合計4発の大型爆弾を投下、7人の命が奪われ、多くの民家が焼失した。ところがこの空襲は米軍の通常空襲記録には記されていない。東海交流会に集うメンバーから『日本の目標に対する1万ポンド爆弾の効果』の中に「TORIIMATSU」の名が出ていることを教えられ、会員で翻訳、『5トン爆弾を投下せよ』を出版した。

そして1万ポンドの謎を解くため、国会図書館のマイクロフィルムの中から原爆投下部隊の出撃記録を発

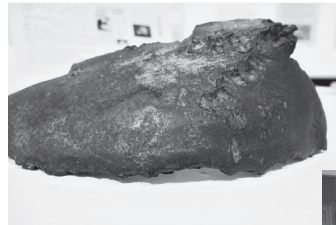
見した。そこには2発の原爆と模擬原爆パンプキンを18都府県30都市に49発投下したことが記されていた。さらに、エノラ・ゲイ号が7月26日名古屋市昭和区にパンプキンを投下していたことも判明した。原爆投下部隊は広島・長崎以外にも侵入、ファットマンと同型・同重量の模擬原爆パンプキンを投下していたのである。

パンプキンの発見から34年の今年、全国の被弾地では語り継ぐ集い、実物大レプリカ展示、体験者の証言を次世代に伝える努力が続いている。

金子 力(春日井の戦争を記録する会)



模擬原爆パンプキン



発見されたパンプキンの破片



地元の体験者に取材に行った時の様子

ボランティアの窓

うた 沖縄をかえせ
杉江 加代子

荒木栄編曲のこの歌を50数年前、デモや集会でよくうたった。本土のために沖縄の人々は犠牲になったのだから、一日も早くアメリカから取り戻さなければならないという思いでうたったのだろう。長く忘れていたが、先日、沖縄展を見ながら小さな声でうたってみた。全部うたえ、返せというシュプレヒコールや拳を振りあげるポーズも覚えていた。私も老人になり現在よりも過去の記憶の方が鮮明になったのかもしれない。もっとも今は、「沖縄を返せ」ではなく、「沖縄へ返せ」とうたわれているらしい。返還後の幾多の困難や、今また始められている戦争への準備を考えると当然のことと思われる。



前世代の平和への思いを
次世代につなげる一助を

和田 徹也

初めまして。今年の4月より週1日を目安にボランティアを始めました。まだ慣れないことがたくさんあり、多くの方々から教わる日々です。沖縄展の設営のお手伝いをする機会がありました。一般見学では見ることができない裏方のご苦勞を拝見できました。展示に関わるお一人お一人の思いにも触れることができたように感じました。

愛知の戦争についても未知のことが私にはたくさんあります。時間を見つけて、愛知・名古屋の戦争遺跡などを訪れてみたいと思っています。「ピースあいち」に集う方々から学びながら、前の世代が抱えてきた平和への思いを次の世代につなげる一助ができれば、と思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。



資料館探訪 41

河北博物院 -中国河北省石家荘市-

河北博物院は華北の河北省の省都石家荘にあります。河北省は日本の半分ほどの大きさでほぼ平坦です。石家荘は北京の西南200km、北京と広州を結ぶ2300kmの鉄道の要衝です。博物院には石器時代に始まる10の常設展がありました。日本の加害を考えるためその中の一つ、十五年戦争の常設展を見に行きました。5月中旬です。

1931年9月の柳条湖事件後の華北分離作戦で、河北は日本軍の戦争に引きずり込まれます。その中で、抗日に焦点が当てられていました。石家荘駅は1937年盧溝橋事件で日本軍によって爆撃されます。その後、八路軍が百団大戦を起こします。それに対し日本軍は華北治安作戦を行い、奪い尽くせ殺し尽くせ焼き尽くせの三光政策を

実施します。

中国のこういった地域にある博物院には、日本軍の加害の事実が鮮明に展示されています。

驚いた事は、1944年末から八路軍はすでに各地の町を回復していたということです。この時期、日本軍は太平洋戦線への動員を余儀なくされ、中国でどんどん支配領域を狭められていっていました。(S・T)



河北博物院の外観



日本が爆撃した石家荘駅(1937年)



任丘県を日本から取り返した時入場した八路軍(1945年4月30日)

月一回の発行で「ピースあいち」の活動がタイムリーにわかる「ピースあいち・メールマガジン(無料)」。「ピースあいち」のホームページからお申し込みください!

新会員を大募集中!! 知人・友人にもお伝えください。

「ピースあいち」は、民営でボランティア運営でも、光熱費・固定資産税等で施設維持に年1200万円がかかります。他方で収入は、展示会などで来館された方の入館料(大人300円、こども100円)は、年100万円にとどきません。多額のご寄付や助成金がとても大きな助けになっていますが、毎年予定できるものではありません。最も頼りになるのは、会員の皆様からいただく年会費収入です。正会員6000円、賛助会員3000円です。いま、正会員が約330人、賛助会員は約430人。もっともっと増やしたいのです。

「ピースあいち」の活動に共鳴していただける方なら、どんなでも大歓迎です。電話・Fax 052-602-4222にご一報ください。クレジットカード、銀行振込で入会、寄付していただけます。



オンラインの
入会はこちら



オンラインの
寄付はこちら

【利用案内】

- 開館日 火曜日～土曜日
- 開館時間 午前11時～午後4時
- 休館日 日曜日・月曜日
夏季休館 2025年9月14日～9月22日
- 入館料 大人300円・小中高生100円
- 常設展示「愛知県下の空襲」「戦争の全体像・15年戦争」「戦時下の暮らし」「現代の戦争と平和」、準常設展示「戦争と動物たち」「戦争と子どもたち」。ほかに、図書や戦争体験動画のライブラリーもあります。
- 学校や団体の見学で展示ガイドや体験談を希望される場合は、事前にご相談下さい。
- 駐車場は2台分あります(300円)。他に障がい者用が1台分あります(無料)。

交通のご案内



●編集後記●

今年6月の来館者数は、昨年同月の2.5倍以上でした。開催していた企画展は「沖縄から平和を考えるー沖縄の基地問題は私たちの問題」。来館アンケートにも多くの方が、来館して感じた平和のこと・戦争のことを、現在と未来の問題に思いをはせて書いてくださっています。今年は戦後80年ということで、ピースあいちでは企画展やイベントなど、7つのプロジェクトを進めています。そのうちの5つが今夏行われます。ぜひご参加ください。(Y)